

# 児童会・生徒会活動の活性化を図る特別活動

—集会活動を通して自主的、実践的な態度の育成を目指す—

特別活動研究会議

研修員 中尾 和美（川崎市立下平間小学校）

高橋 徹（川崎市立中原小学校）

小西 智子（川崎市立御幸中学校）

中松 利江（川崎市立井田中学校）

研修指導主事 行川 博幸

## 主題設定の理由

特別活動においては、児童生徒が自主的、実践的に集団活動を進め、その間の児童生徒の相互作用を第一義とするので、相互作用を重視した「望ましい集団活動」を育てることが最も直接的な目標になる、と学習指導要領解説に示されている。

この「望ましい集団活動」ができる児童生徒を育てるために、児童生徒相互が協力し合って活動の目標を設定したり、自分の役割や責任を進んで遂行したりするとともに、児童生徒個々が実際に直面している諸問題への対応や解決の仕方を、集団場面を通じて、実践的、体験的に学ぶ活動が行われる。このような活動を通じて、自ら決定した行動を状況に応じて着実に遂行したり、現実即して実行可能な方法をとったりする自主的、実践的な態度の育成が望まれている。そこで、児童会・生徒会活動を通して自主的、実践的な態度の育成を目指したいと考えた。児童会・生徒会活動は小・中学校において共通する活動であり、かつ全校児童生徒のかかわるものとして集会活動に着目した。そこで集会活動における実態や課題を把握するためにアンケート調査を行った。

小・中学校教員に対するアンケート調査（研修員を通して回収可能な方からのデータ：38校）では、「マンネリ化している」「教師がリードしてしまう。子どもの発想を吸い上げ、生かすという時間がない」「集会時間の確保の必要性」「子どもたちの発想を豊かにするためにはどうしたらよいか」などの回答があり、注目した。

さらに、集会活動を運営していく小・中学校の子どもたちにもアンケートをとり、集会活動に対して感じていることや感想及び希望することなどの意識調査からは、小学校の一部で前記の意識調査をしたところでは、「これからもレクをやりたい」が多く、互いを理解し親睦を図ることを希望する内容であった。

本研究会議では、上記のことを踏まえ、親睦を図る活動を大切にしつつも、さらに児童生徒の自治的活動として学校生活をよりよく過ごせるように自ら課題を見だし、自らの力で解決を図る手だてを考えていきたい。そして、その手立てを生かした取組を通して集会活動に対する意識を高め、児童会・生徒会活動の活性化を図ることを目指したい。

## 研究の内容

### 1 学習指導要領に見られる「児童・生徒会活動」～集会活動の意義について～

小学校学習指導要領解説特別活動編によると、「児童会活動においては、学校の全児童をもって組織する児童会において、学校生活の充実と向上のために諸問題を話し合い、協力してその解決を図る活動を行うこと」と示されている。また、中学校学習指導要領特別活動編では、「生徒会活動においては、

学校の全生徒をもって組織する生徒会において、学校生活の充実や改善向上を図る活動、生徒の諸活動についての連絡調整に関する活動、学校行事への協力に関する活動、ボランティア活動を行うこと」とある。さらに、小学校では児童会集会活動について「これは、全校又は学年の児童が一堂に会して、活動の計画や内容についての協議、活動状況の報告や連絡、集会などが行われるものである。この集会は、児童の自発的、自治的な活動として行われるものであって、学校行事として行われるものとは、計画及び運営において異なるものである」と示されている。一方、中学校では「特に、中学校においては、小学校での児童会活動などの経験を基礎にし、生徒の自発的、自治的に活動する態度や能力を高めていくことが求められる。そこで、生徒の自主性、自発性をできるだけ尊重し、生徒が自ら活動の計画を立て、協力し合って望ましい集団活動を進めるよう指導、援助することが大切である。」と示されており、児童会、生徒会活動の活性化を通して、生徒の自主的、実践的活動の充実を図ることが重要であると考えられる。

## 2 小学校・中学校における集会活動

### (1) 小学校の集会活動における現状と課題 (アンケートより)

全校児童による集会(行事に関する集会を除く)に関するアンケート集計結果  
(アンケート協力 17校) 表1

① 全校児童による集会を行っていますか	行っている	16校
	以前は行っていた	1校
② 運営(複数回答)	運営委員会(企画・計画)	3校
	代表委員会	4校
	各委員会	15校
	その他	6校
	(クラブ、児童輪番、縦割り)	
③ 内容(複数回答)	ゲーム、クイズなど	15校
	歌、ダンスなど	10校
	学習に関するもの	4校
	行事に関するもの	3校
	委員会・クラブに関するもの	8校
	その他	5校
	(劇、ユニセフ、読み聞かせ、大縄とび)	
	ドッジボール、腕相撲、給食、リレーどろけい、おにごっこ)	
④ 割合・回数(複数回答)	週に1回	0校
	週に2~3回	0校
	月に1回	9校
	月に2~3回	4校
	学期に1回	4校
	学期に2~3回	4校
	その他(年1、2回)	8校
⑤ 時間(複数回答)	10分程度	9校
	20分程度	8校
	30分程度	1校
	40分程度	1校
	その他(60分、90分)	4校

アンケートによると、特別な事情(人数1,000人以上の大規模校など)のある学校を除いては、ほとんどの学校において全校児童による集会活動が行われている。大規模校においても、低・中・高の学年別に集会を開くなど、何らかの形で集会活動が実施されている。

このことから、仲間とのふれあい、楽しい時間を共有することによって集団としての連帯感や学校の一員としての所属感などが高まり、子どもたちの遊びの広がりや、自主的・実践的な態度の育成において、各学校が集会活動に期待するものは多いのではないかと考える。

運営するのは、委員会によるものが多いが、児童会の代表児童(運営委員、代表委員など)が運営するところも中にはあることがわかった。その他、クラブや縦割り班など必要に応じて行う場合もあるようである。運営する組織別に大きく分類すると、以下のように分けられた。

A 児童会の代表児童によるもの…①学校全体をあげてのお祝いや行事・組織に関するもの②日常のふれあいや楽しみを目的にしたもの(例…①はじめまして集会、6年生を送る会、運動会のテーマや応援団の紹介、委員会・クラブ紹介、②つなひき大会、スタンプラリー集会、ナイスミュージック集会、①②児童集会など)は、年間計画が立てやすく、比較的活動の積み重ねができる。しかし、運営するのが特定の児童になってしまうので、他の児童は受身になりやすい。

B 各委員会によるもの…常時活動の他にを行う委員会独自のもの(例…集会委員会による〇×クイズ、スポーツ委員会による縄とび集会、自然委員会による校内自然クイズ集会など)は、常時活動をし

ながら集会の企画準備を進めなければならないので、時間の確保が難しく、あまり回数がとれない。委員会の特徴を生かしたユニークな活動が期待できるが、それを実現できないのが実情である。

C その他…クラブ・縦割り班など必要に応じて行われるもの（例…バトンクラブによる発表、縦割り班による交流給食・集会など）。縦割り集会は、異年齢による小集団で構成する班のため、ふれあいを深めることができるが、子どもたちだけでは、遊びの幅が広がらない。

このように組織別にしてみると、実に多様な集会活動を計画できることがわかる。しかし、多くの学校で内容のマンネリ化や、企画・準備する時間の確保などの課題が山積していることがわかった。子どもたちの自主的な姿勢を伸ばすための支援の在り方には、どのような取組が有効なのであろうか。

## （2）中学校の集会活動における現状と課題(アンケートより)

中学校における集会活動に代表されるものに「生徒集会」がある。学習指導要領解説特別活動編にもあるように、生徒の自発的、自治的に活動する態度や能力を育成するためにも、生徒が自ら活動の計画を立て、協力し合い、実施する「生徒集会」を定期的に行うことは重要であると考えられる。しかし、定期的であるがゆえに、執行部である生徒会担当者（生徒、教員ともに）が抱える悩みはつきないのが現状である。そこで、何校かの協力を得て、「生徒集会」に関するアンケートを行った。

1 生徒集会は行っていますか	アはい 18校 イいいえ 3校
2 どのくらいの割合で行っていますか	ア週に1回 8校 イ月に2～3回 4校 ウ月に1回 6校
3 時間はどのくらいですか	ア5分程度 1校 イ10分程度 9校 ウ20分程度 8校
4 中心になって運営しているのは誰(どこ)ですか(複数回答あり)	ア教員2校 イ生徒会本部役員17校 ウ各種委員会1校

表2 アンケートの結果によると、ほとんどの

学校が「生徒集会」を行っている。形式としては、週に1回、集会の前、所要時間は10分から20分と短いものが多く、中には月に1回、または集会と隔週で2週に1回

と様々な学校があるが、大部分の学校で生徒集会は定期的に行われている。定期的に行う目的としては、週のはじめに気持ちを整えて学校生活に臨む、委員会活動の充実、生徒への意識付けなどが主なものである。

主な内容としては、各種委員会からの報告というのが最も多く、その週の予定や連絡、週番目標、生徒会本部からの連絡等を担当者が発表している。学校によっては、そこに学校行事に関連するものを組み込むなどの工夫もしている。例えば、体育祭のブロックの組み合わせの抽選、合唱コンクールの発表順の抽選、部活動の大会報告、駅伝大会の壮行会、行事関係者に対する（教員も含む）インタビューなどである。また、レク的な要素を取り入れ、簡単なゲームやクイズを行っている学校もある。さらに、校歌を歌ったり、生徒によるピアノ伴奏など音楽的な要素を取り入れている学校も見られた。

内容に関しては、まず生徒の興味・関心を引くことに重点が置かれている。そのために、毎回同じ生徒が壇上に上がるのではなく、様々な生徒が活躍できるよう配慮されている。また、個人ばかりに注目がいくのではなく、クラスや学年対抗のレク（クイズ）など生徒全員が参加できる態勢で実施している学校も見られた。視聴覚機器を利用している学校もあり、成果を挙げることができたようである。その結果として、代表生徒が発表するだけの「生徒集会」よりも、全員が興味をもって参加できる「生徒集会」の方が、より充実したものになるようである。

しかし、週に1回の割合で行われる集会の内容を、毎回違うものにするには非常に難しい。どの学校でも、「生徒集会」に対しては悩みを抱えている。アンケートによると、一番に挙げられることはまず、マンネリ化である。週に1回の実施ということもあり、計画に要する時間の確保が難しい。特に、生徒が関心をもてるものと考えたとなると、それなりに準備が必要になってくる。大きな学校行事があるときにはそれに関連した集会を行うこともできるが、毎週となると限界もある。新しい企

画を考え、計画し、実施するためには、「生徒集会」のためにかかる時間が必要になってくる。視覚に訴えるものは、生徒の興味を強く引く効果があるが、その準備には相応の時間が確保される必要とされる上、他の教員の協力も欠かせない。また、より多くの生徒の関わる「生徒集会」となると、必然的にそのための練習やリハーサルも必要となり、さらに多くの時間がかかることになる。そのため、月に1回の実施にとどめることで、より「生徒集会」の中身を充実させようとする学校もある。

次に、小・中学校でのアンケートから明らかになった課題を踏まえ、実践した事例を紹介する。

### 3 実践事例

#### (1) 小学校「児童が計画・運営する『児童集会』」(A小学校)

本年度から児童が計画・運営する「児童集会」(8:30~45)を月1回実施している。代表委員会で内容を検討・決定し、計画委員が中心になって運営してきた。

まず、今月の歌を全員で歌い、続いて毎月工夫して、クラブ・委員会の活動紹介、レク・ダンス、運動会のスローガン・全校ダンス・マスコット紹介、子どもまつりのコーナー紹介などを行った。しかし、2学期後半になり、全校が参加する集会のアイデアが児童から出にくくなった。そこで、川崎市の中学校の生徒集会で実践されている例(クラスの紹介、今週の予定、ゲーム大会など)を20ほど紹介したところ「くじ引き大会」「クリスマス会」をやってみたいという意見が多く、それぞれ11月、12月に実践した。以下に12月の児童集会を紹介する。

12月の児童集会(クリスマス会)プログラム

表3

①入場	「きよしこの夜」(ハンドベル演奏)	音楽クラブ
②読み聞かせ	「かさこ地蔵」	図書委員会
③歌おう踊ろう	「赤鼻のトナカイ」	計画委員(トナカイ・サンタ)
④サンタクロースのメッセージ		校長先生
⑤退場	「きよしこの夜」(ハンドベル演奏)	音楽クラブ

前回までは計画委員が活動の中心となっていた。しかし、今回は話し合いの結果「校長先生にサンタクロースになって欲しい」「音楽クラブには入退場の音楽を」「図書委員に読み聞かせをしてほしい」とバラエティに富んだ内容になった。当日は全校児童が合奏と読み聞かせを静かに聴き、「赤鼻のトナカイ」では元気よく歌う姿が見られた。

1学期当初は、計画委員に対する教師の支援(話し合いの進め方、内容選び、役割分担、依頼の方法、全校へのPR、司会の仕方)の機会が多かったが、回数を重ねるごとに計画・運営のほとんどを自主的にこなせるようになった。また、参加する全校児童も、静かに話を聞き、ともに楽しい時間を過ごそうとする意識の向上が見られた。これは、『今日は何をするのかな』という内容に対する興味と同時に、司会の児童の話をしっかり聞こうとするマナーについても意識し始めたのではないと思われる。

また、児童集会を始めるにあたっては、全校児童が楽しめる集会にできるかという不安があったことも確かである。

しかし、児童集会を行うことにより、和やかな雰囲気にもまれ、全校児童が交流していく中でたくさんの児童の「楽しかった!」という笑顔を見ることができた。

教師が児童を信頼し、活動する場の設定を一緒に考え、その上で時間と場所を確保し、さらに運営上の様々な方法などを伝えることで、児童自ら計画・運営に携わることができた。その結果、児童が活動を企

～計画委員の感想より～

私は児童集会はとってもいいものだと思います。理由は私たちが児童がして楽しめるものだからです。友達計画委員はカルトラマンじゃんけんという少し変わったじゃんけんを児童朝会でやりました。計画委員がカルトラマンに扮しておどりがりじゃんけんをするというものです。その他にも、12月にはサンタやトナカイを扮したりしました。みんな楽しんでくれたと思います。ぶいっくの朝会は、何かお知らせを伝えたり、話しを聞いたりももちろん大切なものでけど、児童朝会も、全校生徒の交流の場として、大切でいいものだと思います。

画することに対して自信をもち、さらに次の活動へと生かしていけるようになった。その経験が、「今度は〇〇したい！」という自発的、自治的活動を生み出す原動力になると実感することができた。

## 実践事例

### (2) 中学校「生徒が計画・運営する『生徒集会』」(B中学校)

本校では月に2、3回月曜日の朝に生徒集会を実施している。生徒会本部役員が朝、8:10～8:25の間に打ち合わせ・リハーサルを行い、順番で集会の司会進行を務めている。内容は、開会の言葉・先週の週番長からの報告・生徒会長の言葉・閉会の言葉という流れで、その後は教師主導の朝会となっている。

生徒会本部役員にアンケートを実施したところ、現在の「生徒集会の問題点」として、次のようなことが挙げられた。「話をきちんと聞いていない人がいる」「役員が指示をしないと整列できない」「遅刻してくる人がいる」などである。そこで問題点を改善するために生徒会本部役員の生徒たちと話し合いを行ったところ、『みんなに興味をもって参加してもらえる生徒集会を』というテーマのもと、計画を進めることになった。

話し合いや計画の段階では、様々な楽しいアイデアが提案されたが、基本的には運営する自分たちにも無理のない内容で、生徒集会のねらいにそったものを企画し、実施することができた。表4

① 開会の言葉	生徒会	⑤ 生徒会長の言葉	生徒会長
② 週番の報告	週番長	⑥ 閉会の言葉	生徒会
※③ 部活動の報告	各部部长		
※④ ミニレク	全校生徒	※ 今回新たに計画したもの	

また、③の部活動の報告では、各部（希望により）の部長が活動報告を行った。正式な試合の結果だけでなく、練習試合や最近の練習の様子などを報告する部もあった。④のミニレクでは「ジャンケン大会」を行い、ステージに上がった生徒会本部役員一人ずつと全校生徒がジャンケンをしていき、負けた生徒はその場に座るというルールで、最後の数名になるまで対戦を行った。最後まで残った数名には、全校生徒が賞賛の拍手を贈り、和やかな雰囲気の中でミニレクを終了することができた。

中には、初めての試みであるミニレクに戸惑いを見せる生徒もいた。しかし、予想された盛り上がりえない雰囲気や、集中力が散漫になってしまうような問題には至らなかった。ミニレク終了後は、意外にも短時間で整列できた。静粛な中で生徒会長の「週のはじめに全校で楽しい時間が過ごせてよかったです。一週間頑張りましたよ。」という言葉聞くことができた。

今回の生徒集会終了後には「話だけで終わるより楽しくやりたい」「もっと工夫できる」「盛り上がるころ、静かになるところのメリハリが大切」などという運営する側の生徒会本部役員の意見だけでなく、一般生徒のことを考慮した意見・反省も生まれた。生徒自らが工夫して生徒集会を行うことにより、全校生徒が意識をもって集会に参加することにつながり、充実した時間を共有できるという手応えを生徒会本部役員が感じるとともに、集会活動を企画・運営することに対して、自信をもつことができたようである。また、「生徒集会」の本来の意義や目的についても改めて確認するよい機会となった。

#### 一般生徒の感想から

いっことは少しづつ「生徒集会」のイメージが印象に残りました。いっもなり「初め、早め、の言葉もいっだけなの。今日は「ミニレク」と言うことで「ジャンケン大会」というのをやってくれて、イメージが少しだけ変わりました。「ジャンケン大会」では勝つも座りました。人がいたりと、みんなはとまどっていた様子でした。でも、いっもはしゃげるだけの生徒会がレクをやってくれたおかげで、いっもよりかは明るく、終われたと思えました。

部活の紹介は、普段どの部活がどんな事をやっているか分からないけど、紹介があればどの部活が何をやっているか分かるからイイと思う。ミニレクは、エ、とみんなやってくれてる人が少なかったからもっと工夫してやるイイと思う。

## 研究のまとめ

今回、児童集会・生徒集会について研究したことで、小・中学校が抱えている様々な問題点が浮かび上がってきた。同じ集会でありながら、小・中学校では、多くの共通点・相違点があることがわかった。また、互いにどのような集会活動が行われているか、十分に把握していなかったため、小学校で培ってきたものが中学校で断ち切れてしまうこともあったようである。そこで、アンケートをもとに共通の問題点を探り、解決に向けて実践していく中で、児童生徒の自主的、実践的な態度の育成のために、教師としてどのようなことが支援できるかを考えてみた。

時間の確保ができない状態で集会を進めると、どうしても教師からのお仕着せの形の集会になりがちで、しかもマンネリ化することもわかった。また、児童生徒の方も、“やらされている”という意識が強くなるため、リーダーも育たない上、児童会・生徒会の一員としての意識も低くなる。

まず、きちんと児童生徒に現状を見つめさせ、問題を投げかけ意識をもたせることが大切である。児童生徒自身から課題があがり、その解決のために話し合い、実践に向けての計画・準備へつながるよう支援することが必要になってくる。児童生徒は、自分たちで考えた企画を自らの手で実践することで、自分達の役割を自覚し、自信をもつことができる。そして、実践の後、振り返りを行うことで次につなげ、より充実した活動を行うことができる。

今回、小・中学校で出された課題をそれぞれ持ち帰り、それを基盤に集会に向けて児童生徒に考えさせた結果、今までにはない集会活動を行うことができた。小・中学校で意見交換を行ったことで、集会に対する枠が広がり、児童生徒の発想も豊かになったように感じた。子どもたちも、自分たちの力で集会を開いたことで充実感をもち、意欲的な姿勢が見られるようになったことは、大きな成果といえる。

しかし、児童生徒による自主的、実践的な集会活動を行うためには、児童生徒と教師が共に集会の内容や場の設定を考え、教師は、時間・場所を定期的に確保し、常に新たな試みができるよう環境を整えていく必要がある。また、全校での活動の充実を図るためには、日頃の学級活動を通して、話し合い活動や係活動などにも力を入れていくことが大切であろう。

今後も子どもたちの自主性を高めるために、さらに小・中学校の連携を通して児童会・生徒会活動の活性化を図ることを課題としたい。

最後になりましたが、研究を進めるにあたり適切なお助言や調査にご協力いただいた先生方、また、研究にご支援、ご助言を下さいました学校教職員の皆様にご心より感謝し厚く御礼申し上げます。

### 【参考文献】

- |   |       |
|---|-------|
| 文部省『小学校学習指導要領解説―特別活動編―』                               | 1999年 |
| 文部省『中学校学習指導要領解説―特別活動編―』                               | 1999年 |
| 国立教育政策研究所教育課程センター<br>『評価基準の作成・評価方法の工夫改善のための参考資料（小学校）』 | 2002年 |
| 国立教育政策研究所教育課程センター<br>『評価基準の作成・評価方法の工夫改善のための参考資料（中学校）』 | 2002年 |

### 【指導助言者】

- |                                 |       |
|---------------------------------|-------|
| 川崎市立小学校特別活動研究会長（川崎市立西丸子小学校長）    | 橋本 忠光 |
| 川崎市立中学校教育研究会特別活動部会長（川崎市立今井中学校長） | 岡村 修  |
| 川崎市教育委員会学校教育部指導主事               | 渡邊 直美 |